

あの街 この町

〈その3〉市川南・市川・真間

とよばれていました。
五丁目＝全域が見附田で

◎市川

市川は江戸時代、千葉街道の要衝として関所があったところす。

一丁目＝4番が柳下、2

番が宮田、3番の東半分と地蔵山、自然幼稚園の地域が市川境です。市川駅前

から北に向うバス通りの東はほぼ中央から南部が八幡前北部が砂河原、バス通りから大門通りの間を大門前、

大門通りの両側を弘法寺下まで大門、8・10番は以下、11番は下出口です。

二丁目＝国鉄沿いの1・3・5・7・9・14番と、国道北側の16・17・21番の地域が第六天前、15番は荷

積、市川小を含むあたりが下出口、その北側が寒室出口、18・19番は寒室です。

三丁目＝22番が第六天前、

玄授院、安国院を含む一帯が寒室、その西が上出口、

京成電鉄以南の地域が寒室出口、25・27と四丁目の7・8番が小向、真間川との間が真間下です。

四丁目＝真間川と真間山にはさまれた1・4番が本

田、国府台下の江戸川に面した一帯が根本でかつては市川で最もにぎやかだったところす。

◎真間

ママは崖のような地形を指して呼んだものだといわれています。

一丁目＝

1・3、9番は大砂原、15・16番は砂河原、5・6番は鎗田

ほかには小砂原です。かつてこの地

域は砂洲の発達したところ

で、この付近には砂原の地名

が広がっています。

二丁目＝1・12・13番は

砂河原、市川駅に通じる道路の東が笹塚、西の大門通りとの間が大門向、大門通

り両側が大門、その西が真間山下です。

三丁目＝10番が砂河原、東が鎗田、北西が笹塚です。

四丁目＝真間小学校のある1・2番と5番の南半分が堰向、3番・4番の北部が新田場、亀井院・手児奈

霊堂などから西一帯が本田、

台地上の弘法寺境内を本寺

際、鹿島建設市川寮のあるところ

は暗渠になってしまった平川沿いの地域が石橋上、ほ

かには商科大学、スポーツセンターの一部を含めて久保

上といいました。次回は須和田、国府台、

市川の古地名シリーズ

一丁目から続く以下、ほかは石代です。
二丁目＝1・4、9番が
三丁目＝市川毛織前の通りを境に、東が第六天前、西が荷積といいました。荷積は江戸川を利用した物資の集積地があったところす。

四丁目＝三丁目に続き、道路の東が第六天前、西が荷積、その南4番が見附田

